

緑区 鳴海学区

世帯数：5,237世帯 人口：11,667人 面積：1,674km²

※平成31年2月1日現在の世帯数と人口より

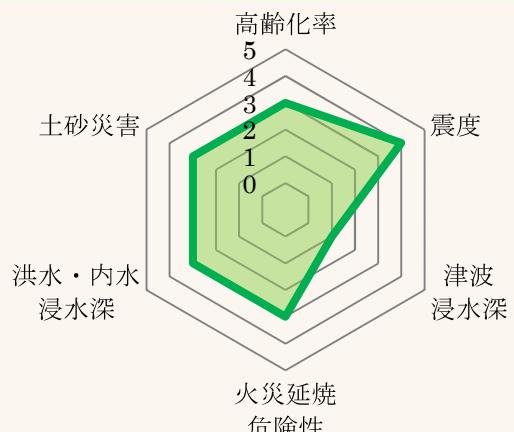
特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震が発生した場合、まずは強い揺れから身を守りましょう。当学区は津波浸水が想定される地域であり、名古屋港への津波到達時間は最短で96分と予測されており、避難はその後から始まります。この時間を最大限に使い、みんなで助け合って避難しましょう。

火災が発生した場合は、燃えて倒壊する建物が道を塞いだり、強い熱風が吹き荒れる懸念があります。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、泥水が溢れだし、道が通ることができなくなることがあります。これらのこと踏まえ、適切な避難先と、そこまでの安全な経路についてあらかじめ複数考えておきましょう。

リスクレーダーチャート([STEP1: 地域特性の把握])

	値	5段階
高齢化率	23.8%	3
震度	6強	4
津波 浸水深	0.5m未満	1
火災延焼 危険性	500~1,000棟未満	3
洪水・内水 浸水深	1.0m~2.0m未満	3
土砂灾害	警戒区域に 人家10件以上	3



お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック等)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用下さい。
<http://www.city.nagoya.jp/bosaiikikanri/page/0000110628.html>



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

- まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。(安否確認、声かけなど)
- 災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

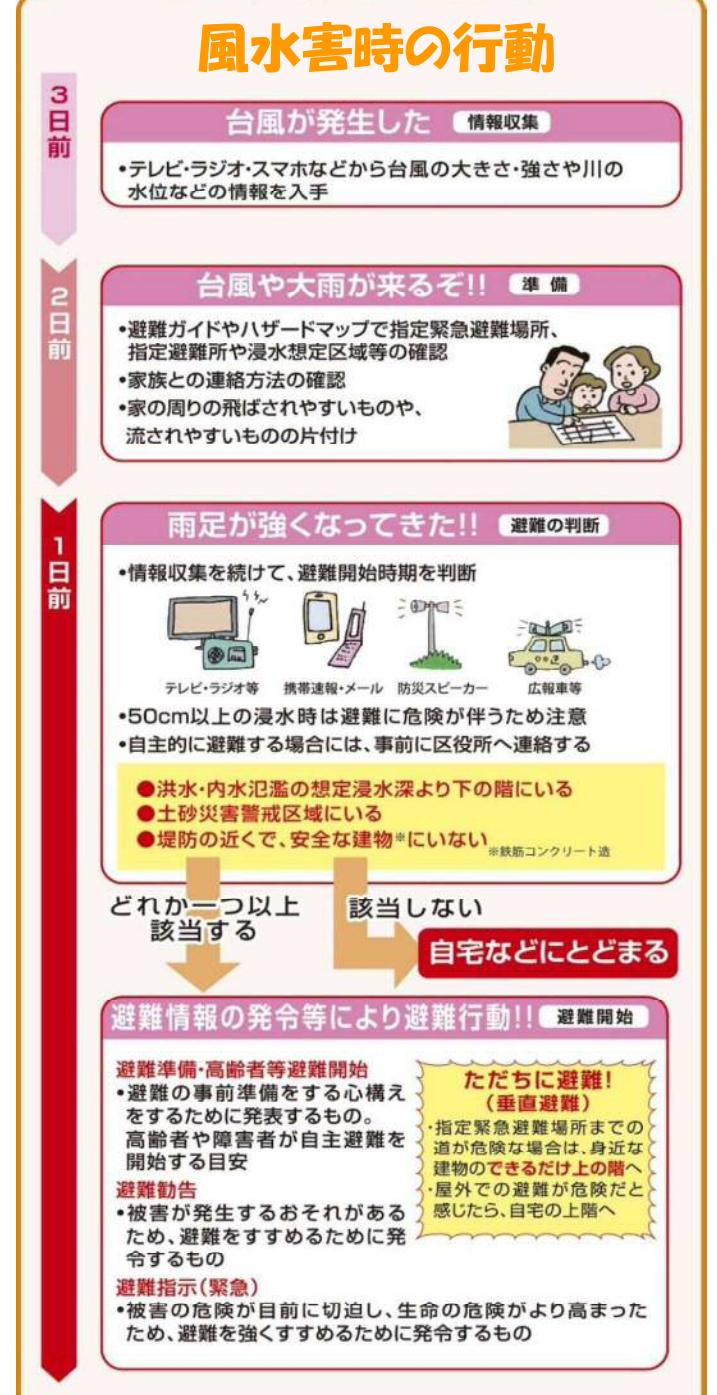
学区の皆さんへ(ご協力のお願い)

災害発生時に皆さんの命を守る避難行動が、この度、1枚の地図になりました。災害への関心を高めていきましょう。大規模な災害が発生した時、学区の皆さんのが1つにまとまり、互いに助け合えるよう、毎日の「おはよう、いってらっしゃい」の一言と明るい笑顔で、お隣同士、組や班、町内など地域の横つながりを更に強くしていきましょう。

鳴海学区災害防災部長 柄植富夫

津波避難のポイント!

津波浸水想定区域内にお住いの方は、大津波警報が発表されたら、津波到達までの時間を使い、出来る限り「高台」へ避難しましょう。要配慮の方や時間がいるなど高台への避難が困難な場合は、津波避難ビルへ避難しましょう。



土砂災害からの避難

大雨や地震などをきっかけとして、がけ崩れや地すべりなどの土砂災害が発生することがあります。土砂災害には前兆現象がある場合もあります。土砂災害警戒区域では、特に危険性が大きいので、いざという時に適切な避難行動がとれるように考えておきましょう。



《土砂災害警戒情報》

大雨警報(土砂災害)発表後に土砂災害の危険がさらに高まった場合に、市町村単位で、都道府県と気象庁が合同で発表

《土砂災害警戒判定メッシュ情報》

大雨による土砂災害の危険度の高まりを、地図上で5km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして示す情報(気象庁ホームページで確認できる)



《土砂災害の主な前兆現象》

- 斜面にひび割れや膨らみなどの変形が見られるとき
- 斜面から水が噴き出てくるとき
- 水が濁ったり、水量が急に減るとき
- 木立が不揃いになったり、井戸の水が濁るとき
- 斜面から石ころが落ちるとき